

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

千葉県千葉市

●地域における現状・課題

- 運動部活動数は、今年度543部活であるが、年々部員数が減少しており、特に夏の総体後（3年生引退後）は、10人以下の部活動が112部となっている。また近年、廃部となる部活動が急激に増えてきている。（R4年度までは廃部は年1～2であったが、5年度は8、6年度も6程度が予定されている。）
- 学校別の運動部活動設置状況は、最大で12の運動部を設置している学校がある一方で、最小は2部活の設置と、学校間格差が激しい状況となっている。

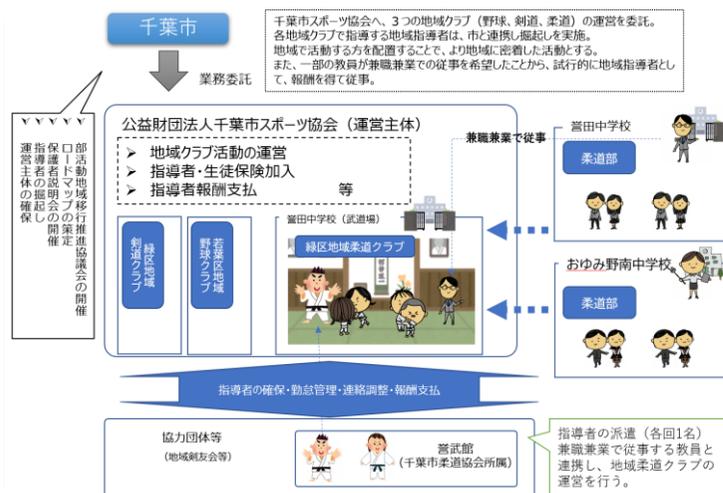
●取組事項の概要

- 本市の実態に即した指導や助言を得るべく、中学校長や小中体連会長、市スポーツ振興部門の経験がある者を統括コーディネーターとして雇用し体制を整備。
- 単独や近隣校の部活を一つの活動単位とするなど、様々な活動単位で実証事業に参加し、それらの活動に専門性を有する地域の指導者を派遣
- 市内に10以上の大学・専門学校が設置されているメリットを活かし、学生を地域指導者として掘り起こすこととした。大学・専門学校側のニーズ（生徒の実習の場や学生の地域貢献の場）と、自治体側のニーズ（学生の指導者としての活動）のマッチングができないか取り組んだ。

●取組の成果、特に工夫した点等

- 統括コーディネーターは、アドバイザーとしてではなく、メンバーとして常に一緒に検討をする立場で従事してもらい、より実態に即した、具体的なアドバイスを得ることができた。
- 複数校が集まったの活動であっても充実した活動を行えることが明らかとなった。また、地域道場との連携により、経験豊富な指導者を十分な人数を確保することができ、怪我が心配される柔道であっても、安全に活動を行うことができた。
- 教職課程履修学生へのチラシ配布、大学内へのチラシ掲示により、短期間で約20名の学生が人材バンクに登録し、実際に指導に従事する学生も採用することができた。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：体育・スポーツ協会運営型
- (2) 運営主体：（公財）千葉市スポーツ協会
- (3) 種目：柔道・剣道・野球
- (4) 指導者の主な属性：教員OB、地域柔道道場・地域剣友会に所属
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：3～4回
- (6) 主な活動場所：各中学校武道場（柔道場・剣道場）、各中学校グラウンド
- (7) 主な移動手段：徒歩・自転車（一部、剣道の武具について保護者の運送）
- (8) 1人あたりの参加会費等（年額）：0円/年
- (9) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,200円・1,850円